

平成30年「西脇知事と行き活きトーク」における主なご意見と京都府の対応

(平成31年3月現在)

回	開催日・場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
<p>プレ 実施</p>	<p>平成30年6月16日 八幡市立子ども・ 子育て支援セン ター「すくすくの杜」</p>	<p>西脇知事と子育て に関する懇談会</p>	<p>男性で育休をとることについて、長期間だと上司にも言いにくいというのが本音。出世街道から外れてしまうかと思ってしまうような企業がまだまだ多い。中小企業や自営業の方が多過ぎて、そういった制度をちゃんと使えるという環境がない子育て中の方のほうが実は多い。</p>	<p>企業等の団体と連携して社会全体で子育てを支える環境を作るため、平成31年度、新たに「子育てに優しい職場づくり事業」を創設、132,000千円の予算を計上しました。 子育てに優しい職場づくりが、誰もが働きやすい職場環境となり、多様な人材確保にもつながるという好循環を生み出し、企業価値高めることとなります。こうした好循環を生み出せるよう、個別企業約2.5万社に「子育て企業サポートチーム」を派遣し、国や府の子育て支援制度の周知を行い、就業規則の改正や時間休暇が取りやすい環境づくり等を促進するほか、複数の企業がグループ化し、共用のサテライトオフィスを設置したり、共同で人材を確保する等の取組みに対して支援してまいります。また、子育てしやすく働きやすい職場づくりの「行動宣言」を行い実践する企業を発信いたします。</p> <p>就労環境改善サポートセンターにおいては、労働者の処遇改善や正規雇用化を推進し、就労環境改善対策などに関して、個々の課題に対応する個別相談や、意識改革を図るためのセミナーを開催するなど、新しいワークスタイルの推進に取り組む中小企業等を支援してまいります。</p> <p>さらに、31年4月からは京都ジョブパーク企業支援コーナーの人材確保支援機能を加え「京都府中小企業人材確保・多様な働き方推進センター(仮称)」として刷新し、さらなる人材確保や働く方の就労環境改善に取り組めます。</p> <p>また、平成30年度8月には京都府中小企業人材確保推進機構において多様な働き方推進ワーキングチームを設置し、社員の子育てについての企業の考えや実態、働きたい人や働く人へのアンケートを実施するなど、子育てや介護により勤務時間に制限のある女性などが安心して働けるよう、多様な働き方を可能にする仕組みづくりを検討するとともにモデル事業に取り組んでいます。</p> <p>そのほか、社員の子育てについての企業の考えや実態、働きたい人や働く人へのアンケートを実施するなど、平成31年度は社員の子育てに対する経営者の意識を変えて頂くとともに子育てがしやすい社内制度を支援する取組を進めてまいります。</p> <p>このような取組を行うことで、子育てに優しい職場づくりを進める企業を増やし、社会全体で子育てを支えるという環境を作ってまいりたいと考えております。</p>
<p>1</p>	<p>平成30年8月4日 大山崎ふるさとセ ンター</p>	<p>地域づくりはひとつ りから</p>	<p>特になし</p>	
<p>2</p>	<p>平成30年9月2日 綾部市研修セン ター</p>	<p>「地域を守る消防 団」 ～魅力ある消防団 を目指して～</p>	<p>日頃から住民の方々の様子や家族構成など、1点でも多くの現状を得る声かけなどは大切。しかし、なかなか避難をされていないのが現状なので、避難の大切さをいま一度知っていただく必要がある。消防団だけでは限界があるので、行政やさまざまな団体と連携し、連絡を密にして、瞬時に情報を伝える必要があると感じた。</p> <p>綾部市では、消防団応援の店ということで、消防団にはちょっと特典をつけてもらえたり、優遇してもらえらという制度をつくっていただきました。消防団ということで本当に応援してもらってますので、入団していただける方も増えていけばいいなと思っております。</p>	<p>水害時には住民が互いに声をかけあって早めに避難することが重要であることから平成31年度は住民避難のタイムラインの普及に取り組むほか、災害時に避難開始の声掛けを行う「災害時声掛け隊」を創設することとしており、共助による住民の避難行動を促進してまいります。</p> <p>平成31年度当初予算で「京都府消防団応援の店」制度導入経費を計上しており、登録店舗において消防団員やその家族に対して一定のサービスを提供いただける仕組みをつくり、京都府全体で消防団を支える機運を広め、消防団員の確保につなげます。</p>

2	平成30年9月2日 綾部市研修センター	「地域を守る消防団」 ～魅力ある消防団を目指して～	消防団とは何か、消防団とはどのような活動をしているのか等、もっと皆様に知られてもらえれば、入団につながるのではないかと。	府ホームページ、府民だより、TwitterなどのSNS、イベント等を通じた消防団のPRなどを通じて、引き続き情報発信に努めます。(平成30年度消防団関連広報実績:15回)
			自分たちの町は自分たちで守るという思いで、皆さん頑張ってくださっているのだから、その労をねぎらうという意味でも、消防団員の処遇をもう少しよくしてほしい。	「わがまちの消防団強化応援事業」により消防団の自主的な活動や資機材物資などを引き続き支援するとともに、平成31年度に新たに「消防団支援の店」制度の導入に取り組むこととしております。
3	平成30年10月7日 ガレリアかめおか	新総合計画「府民意見交換会」 in 南丹	写ガール隊をはじめとした地域活性化に取り組んでいる活動などをもっと広めてほしい。	「京都丹波・写ガール隊」の活動については、これまでから京都府のホームページのほか、CATVやSNS等を活用し、京都丹波の魅力発信を行っているところで。  今後も「京都丹波・写ガール隊」はもとより、地域活性化に取り組んでいるNPOや地域団体等の活動について様々なホームページやSNS等で幅広く情報発信を行うよう取組を進めてまいります。
			京都丹波以外から来る人のためにも、アクセスを分かりやすくしてほしい。	京都丹波地域に多くの方に訪れてもらえるよう、今年度、道の駅や観光拠点を巡るドライブコースを掲載した「京都丹波周遊マップ」(平成30年度6月補正予算400千円)を作成したところで。  公共交通機関でも気軽に京都丹波地域に来ていただけるよう、森の京都DMOや管内市町とも連携し、効果的な情報発信を行ってまいります。
			京都丹波で観光から宿泊まで完結できる新たなルートやプランの提案など、丹波を競争力のある観光圏に発展させるため、少しでも多くの予算を活用し、夢のある活動を後押しして頂きたい。	京都丹波の新たな観光資源を発掘することを目的として、若者や地元の方からアイデアを広く募集する「京都丹波の新たな魅力発見事業」(平成31年度当初予算500千円)を実施することとしております。  また、京都丹波観光のモデルコースを紹介するため、京都丹波の自然や食、文化、スポーツなどを結ぶ「京都丹波周遊マップ」を作成し、管外からの観光客を呼び込む取組を行いました(平成30年度6月補正予算400千円)。平成31年度はこれらの観光ルートを紹介するプロモーション動画を作成し、道の駅やサービスエリア、YouTube等で放映することにより、効果的に京都丹波の魅力発信し、更なる交流拡大につなげてまいります(平成31年度当初予算500千円)。
料理人と生産者(食材)をつなぐ役割をしていただきたい。	「京都丹波の食」のブランドを活かし、ホテルグランヴィアグループ佐藤総料理長とコラボし共同開発してきた「京都丹波イチ推しの食」、スペシャルBBQ等のコンテンツを、来年度、「京都丹波の食・味めぐりガイドブック」等により、効果的に発信する事業を、料理人の方々や生産者のみなさんの協力いただきながら実施することとしております。  平成31年度の新たな取組として、料理人に産地に来てもらい、若手農家を中心とした生産者グループと交流を行う事業として、平成31年度当初予算において、500千円を計上しております。			

4	平成30年10月21日 天橋立ホテルエントランス	新総合計画「府民意見交換会」 in 丹後	若者の定着には住環境も大切。府からも住環境の整備や社宅への補助などを頂ければありがたい。	府では平成28年度から京都府移住の促進のための空家及び耕作放棄地等活用条例を制定、「移住促進特別区域」を指定し、地域の新たな担い手確保のために、空き家改修、企業や市町村と連携した賃貸住宅等の整備による住まいづくりを支援しております。 今後も市町村や関係団体と協力しながら、整備に向けた取組を行います。
			これから「食の観光」がものすごく大事になるので、ミシュランガイドブックに、もう一つの京都という形で載せていただくなどして、京都の食を盛り上げていただきたい。	「食」をテーマにした新たな魅力創出や産業活性化など、海の京都DMOと連携して丹後の「食」の魅力を全国発信しているところ。 (平成29年度から季節毎に指定した「海の京都 旬の食材」を使った昼食提供店舗を「海の京都旬の食材提供店」として認定し、統一的に発信。H29～30にかけて海産物・農産物等37種類、延べ154店舗で提供) これからも海の京都「旬の食材」を打ち出した飲食店のエリアキャンペーンや「食」をテーマにした周遊キャンペーンなど、「海の京都」のPRを行い誘客を図る取組を展開していきます。  また、海の京都DMOでも、ガストロノミーリズムや「美食」プロモーション事業(エリアイメージを活用したリズム(フードトレイル)の実施)やエリア内飲食店をPRするための四季毎のクーポン発行などで飲食店との連携を強化を図り、「食の観光」へ力を入れてまいります。
5	平成30年11月18日 京都テルサ	新総合計画「府民意見交換会」 in 京都ヒューマンフェスタ	農福連携は大変魅力ある可能性を秘めた事業。農福連携の事業を今後も継続、発展させるには国や府による力強い施策、関係機関の連携が必要。例えば大学に農副連携学科を設置するなど、他の都道府県でもやっていないことを京都府が一番に取り組んでいただけたら。	京都市農福連携事業については、本年度は76,500千円、平成31年度は70,000千円の予算を計上し、共生社会の実現に向けて農福連携の推進に取り組んでいるところです。  また、日本農福連携協会等の全国団体や、府内の農業関係や就労支援関係機関等とも連携して農福連携の施策を進めているところであり、特に大学連携については、本年度、京都大学と共同して府民講座やシンポジウム等を実施しております。
6	平成30年11月23日 舞鶴市西駅交流センター	新総合計画「府民意見交換会」 in 中丹	例えば福知山駅前のゲストハウスに来られた海外の方が、福知山を拠点に2・3泊して、伊根や天橋立、竹田城などを訪問するというように、北近畿の玄関口として、ハブ的な働きができるような施策をお願いしたい。	JR、丹鉄、兵庫県等と連携し、中丹・丹後・但馬地域の広域周遊を促進するため、訪日外国人も含めたターゲットごとに、食・風景など地域の観光素材を盛り込んだモデルコースの設定と紹介や、地域を周遊するイベント列車「ぐるっと北近畿」の運行などに取り組んでいます。
7	平成30年12月15日 宇治茶会館	新総合計画「府民意見交換会」 in 山城	山城管内の圃場整備率は34%と、京都府内の約半分ぐらいだと思うので、整備を進めていただきたい。	ほ場整備は事業費の地元負担金が伴うことより、事業推進、実施にあたっては、まず地元の推進体制づくりが重要となり、次に地元地権者の全員同意の目処が必要となります。  このため、ほ場整備事業に興味をもつ地域や農業者へは、市町村、農業改良普及センター等の関係機関と一緒に事業制度などを説明会するとともに、地元における実働的な体制づくりをお願いしています。 <事業説明会の開催> 平成29年度:1回(3月) 平成30年度:5回(4月、9月、11月、1月、3月)  今後も、事業実施の検討を開始する地域や農業者には、事業制度の選定や推進体制づくりを支援していきます。
			観光客がバスで来てトイレがないとか、茶園を見たくてもバスの駐車場がないという状況。観光インフラも整備していただけたらありがたい。	山城地域には道幅が狭いことや必要な用地の確保が困難であるなどの理由で大型バスの通行やトイレの設置が未整備な観光スポットが多くあります。  京都府では、「もうひとつの京都」の市町村による地域づくりをさらに深化させるため、市町村とDMOが連携した広域周遊の拠点整備等に対する助成制度『「もうひとつの京都」ステップアップ推進事業』を平成30年度から創設(③20,000千円計上)したところであり、本助成制度を積極的に活用されることで、各地域において必要とされる施設整備に対して支援してまいります。  また、二次交通の利用、例えば鉄道駅発のタクシープランの実施や、電動小型自動車の活用(実証実験中)を検討しているところであり、来年度はカーシェアリングやレンタサイクルの活用など現場のニーズに合わせた交通手段の活用を検討してまいります。